

－「骨太方針2026」と医療AI元年－

「臨床検査の総論的な読み方」について述べていますが今月はお休みを頂きまして、高市政権の骨太方針、そして医療AIについて少し述べたいと思います。「責任ある積極財政」を旗印に掲げる高市内閣は去る7月21日に「骨太方針2026」を閣議決定しました。いわゆる積極財政については本年の1月にも取り上げましたが、簡単に述べると「持続的な経済成長を実現する為には政府から国民へ資金を供給し続ける必要がある。何故なら経済成長により市場規模が大きくなればなるほど、その経済活動の血液たる通貨の絶対量も増やす必要があり、通貨を作り出せるのは政府機関のみだから」となります。

以上より国家財政は一時的に黒字になることがあっても、トータルでは赤字を継続していくのが国の発展の為には正しいあり方であり、それを実現するのが積極財政であると言えます。こうした考え方を基本として策定されたのが今回の骨太方針です。大転換となったのはいわゆる「PB黒字化」を参考指標に「格下げ」し、代わって「政府債務対GDP比の安定的な引き下げ」を目標に掲げた点です。PB黒字化とは政府の黒字、即ち「政府が国民から吸い上げるお金>政府が国民に供給するお金」を意味するので経済成長にはマイナスです。一方で、政府債務対GDP比は経済成長の実現により引き下げることが出来ます。「大転換」と評した意味がお解りいただけると思います。

勿論、骨太方針の効果が出てくるのはこれからです。逆に言えば積極財政を掲げる高市政権といえどもこれまでは以前の骨太方針に縛られていた訳ですから、ここからが本領発揮だと言えるでしょう。

次に医療AIについて述べます。既に診療にAIを取り入れている方々も多いと思います。とはいえ実際の使い方は様々でしょう。電子カルテに組み込んでいる方も診療の傍らにスマホでAIとチャットしている方もいらっしゃると思います。そこで今回はそれぞれの立場に共通する注意点を少し挙げましょう。

まず、個人情報の入力には慎重になって頂きたいという点です。入力された情報が思わぬ経路で漏洩する危険性は否定できません。オンプレミスで完全に電子カルテ内に組み込まれたAIであればそうした危険性は少ないですが、小規模な施設でそうしたAIを導入している所は少ないと思いますので、個人の特定につながる情報の入力には慎重を期していただきたいと思います。

次に内容の正確性についてです。ご存知の通りAIは確率の高い内容を出力しているだけであり、その正確性は担保されていません。つまり全ての責任は使用者にかかってくると言っても過言ではないので、内容を再確認する習慣が必要です。

総じて言えることは、AIといえども「道具」であるという点です。道具である以上、上手に使える非常に強力ですが、下手に使える逆に害をなしかねません。利点と欠点を理解したうえで、うまく使いこなしていただければ、と考えています。

内容に関するお問い合わせ・記事にして欲しい検査のご要望などはこちらへ

☎ 0263-32-8042 ✉ kensa@matsu-med.or.jp

松本市医師会検査健診センター 担当 岩岡

